第４号様式（第８条関係）

議　事　録

会議名	文書館運営審議会		
日　時	令和８年８月５日(水)10:00～12:00	開催形態	公開
場　所	寒川町役場電算会議室		
出席者	河村卓丸委員、内海孝委員、小川千代子委員、中西正史委員、友枝恵美子委員 事務局：鳥海忠相館長、平尾直樹主査、高木秀彰主任主事 傍聴者：なし		
議　題	（１）議事録承認委員の指名について （２）令和７(2025)年度寒川文書館事業結果報告【資料①】 （３）令和８(2026)年度寒川文書館事業中間報告【資料②】 その他		
決定事項	・承認委員には内海委員が指名された。 ・令和７(2025)年度の事業結果報告は了承された。 ・令和８(2026)年度の事業計画は了承された。		
議　　事	**（１）承認委員の指名について** 内海委員が指名された。 **（２）令和７(2025)年度寒川文書館事業結果報告について** 資料①をもとに事務局より令和７(2025)年度の事業中間結果報告を説明した。これに対し、次のような質疑があった。 （委　員） 特別利用について。個人の方が論文に「横浜貿易新報」を使うことに対して許可をしたとある。これはどういうことか。 （事務局） 当館所蔵の複製物を撮影し、その撮影した写真を掲載誌に載せるということだったので、特別利用申請を提出していただいた。 （委　員） 掲載誌は提出してもらうルールになっているのか。 （事務局）		

	２部提供してもらうようお願いしている。 （委　員） 提供された成果物が抜刷の場合はどのような扱いになるのか。 （事務局） そのような事例はあまり多くないが、著作権的にどう考えるか結論が出ていないので、いまのところ内部資料としている。 （委　員） 論文は著作物だが、公表するために雑誌に載せるものなので、抜刷も雑誌本体と同様に公開して構わないと思う。 （事務局） 抜刷自体は関係者に配布するもので、公開のために作成したものではないという考え方もある。 （委　員） 資料を利用に供する機関としては公開できるものを狭めてはいけないと思う。図書館で抜刷をどう扱っているか参考にしてみてはどうか。 （事務局） 図書館は基本的には流通している刊行物を取り扱っている。本件については、文書館で考えるべきことかと思う。 （委　員） 掲載誌を送っていただくのが一番だが、学術誌の場合、著者には何冊も手に入らないことがあり、実際には抜刷しか送ってもらえない事情もある。文書館としても、体系的に揃っていない逐次刊行物がポツンと１冊だけあるのは何故だということになりかねない。そのため、抜刷での収集や公開があっても良いと思う。 （委　員） 研究成果が死蔵されてしまうのはもったいない。開架書架に抜刷コーナーのようなものを設けることはできないか。 （委　員） 申請の際に掲載誌を送るよう依頼する目的は何か。 （事務局） 収蔵資料を活用した研究成果の公表および資料の利用促進のためである。 （委　員） だとすれば、抜刷であっても開架書架で公開して、次の研究につなげるべきだし、これだけ利用されているのだということをアピールすることもできるので、ぜひ

	前向きに考えていただきたい。 （事務局） 当館における抜刷の取扱いについて、検討する。 （委　員） 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会というのはどのような組織で、メンバーはどのくらいいるのか。 （事務局） 全国の公文書館など記録資料を保存し利用に供する業務をおこなう機関が集まっている。機関会員は約 130 で、他に研究者や関係者などの個人会員が 260 名ほど参加している。 （委　員） 各都道府県に１機関以上が参加しているということか。 （事務局） 任意団体なので、県立の公文書館でも会員になっていないところがある。 （委　員） 統計表の示し方で、単位が示されずわかりにくい箇所がある。たとえば「行政刊行物の登録」という表の単位は「冊」だと思うが、「箱」などと誤解されないよう、きちんと示した方がよい。その下の「開館日数および入館者」も同様である。また、閲覧点数のイメージが伝わりにくい。厚みが 10 センチもあるバインダーでも、１枚の紙であってもみな１点と数えるのだと思うが、「点」の定義を補足することを検討してほしい。 （事務局） 承知した。 （委　員） 利用統計は前年と比較できるようになっているが、ほとんどの項目で減少傾向にある。この理由について思い当たることはあるか。 （事務局） 町職員の利用については、令和４(2022)年度から文書管理システムを導入し、公文書が電子化されたため、机上で閲覧できるようになった。このことにより、来館が減ったと推測している。しかし他に要因があるかもしれない。一般の利用者の減少については不明である。 （委　員） この表は令和６(2024)年度と７(2025)年度の比較だけなので、長期的にみる必要

	がある。 （事務局） 開館以来の利用状況は年報に一覧表を載せているので、長期的な比較は可能である。図書館でも、入館者数、貸出冊数ともに減少傾向にあるので、この点も含めて検討する必要がある。 （委　員） 来館者の増加に向けた取り組みを図書館と一緒にできるとよいが。 （事務局） 中間報告において説明するが、令和８(2026)年度に企画展を図書館と一緒に開催する予定である。この企画は図書館１階の展示室でおこない、文書館の機能や取り組みについては４階で別に開催する方向で準備している。 （委　員） インターネットで解決してしまうことが多くなったことが、来館の減少の一つの要因かもしれない。とすれば、インターネットをどう利用してもらっているかの分析が課題になってくる。 （委　員） 古文書愛読会は、館が設置しているのではなく、自主的にグループを結成したと理解しているが、入会を促すＰＲに協力はしているのか。館のホームページに同会の情報を載せているのか。 （事務局） ホームページには載せていない。チラシは、文書館のチラシコーナーに置いている。 （委　員） 古文書講座の時に案内をしているのか。 （事務局） 以前は、時間を設けて、同会会長に案内をしてもらっていた。 （委　員） 案内によって新しい人が入ってくることはあるのか。 （事務局） 効果はあったと伺っている。 （委　員） 会場の確保だけでなく、どのようなサポートができるのか考えてほしい。 （事務局） 以前、テキストで読んだ資料を翻刻して町史研究に載せるということをおこなった。しかし、メンバーのスタンスもそれぞれなので、今後、館としてどのように関

	わっていくかは検討する必要がある。 （委　員） 古文書愛読会がテキストにするのは江戸時代の資料だけなのか。明治以降のもの古文書だと思うが。 （事務局） 愛読会は江戸時代のものを中心に読んでいるが、今年８月の古文書講座は、明治時代の寒川神社日記を読むことを予定している。 （委　員） 刊行物の発行の欄には、発行日だけでなく、ページ数、大きさなど書誌情報も載せた方かよいと思う。 （事務局） 承知した。 （委　員） 回想サロンの成果について、記録のようなものは残しているか。 （事務局） 終了後の参加者アンケートは、図書館に共有してもらっている。文書館の収蔵資料を見せ、ご自身の経験を語っていただいた際、子どものころに宮山の引揚者住宅に住んでいたという情報を得た。しかしながら、その有用な情報を、文書館としてどのように活かしていくのかは整理ができていない。 （委　員） 具体的にどのような文書館資料を見せ、どのような反応があったのかをきちんと記録すべきだ。その場にいた職員の頭の中にとどめておくのではなく、ちゃんと報告することで次につながると思う。 （委　員） 前回にも指摘したことだが、徹底されていなかったということだ。文書館が関わる以上、得られた情報を文字化していく視点は大切だ。 （事務局） 文書館も主催者の一つなので、参加する以上はそれなりの成果を得るべきというご指摘はもっともである。回想サロンは、高齢者を対象とした図書館事業である。昔を思い出し語り合うことで、認知症予防などにつなげる「回想法」は医療や福

	社の現場で用いられているが、図書館ではプログラムとしてこれを援用し、過去のニュース映像を見せながら思い出を語り合う事業をおこなっていた。地域の記録を残すために、文書館の用意した調査事項をその場で掘り下げるということはできないが、断片的に得られた情報を記録し、次につなげるようにしたい。 （委　員） 町の広報誌に回想サロンの開催情報が載っているのはよく目にしたが、いま話を伺って、目的や、図書館と文書館の共催であることが初めてわかった。記憶を文字に書き残していくことが大事だということを最近実感したので、その事例を共有したい。布団の打ち直しを頼みに寒川駅前の布団屋さんにおこなったところ、そこのお婆さまと１時間ぐらい話し込んだ。終戦直後の経験などをいろいろ教えてもらった。また仲間と聞きに行き、記録することができればと思っている。 （委　員） 戦争のときに女性がどのような立場にあったのかを記録することは大切なことだ。聞き書きも立派な記録資料になるので、録音もしながらぜひ進めていただければと思う。 （委　員） このお宅の記録資料は調査しているか。 （事務局） 町史編さん事業では調査していない。 （委　員） ＳＮＳについて確認したい。Ｘをたくさん投稿しているが、同じ情報を紙媒体やホームページ等で見ることができるのか。 （事務局） ホームページに、Ｘに投稿した内容を掲載していない。かつては日付にまつわる資料などをほぼ毎日掲載していたが、そこに費やす時間のことも考え、最近は頻度を下げている。資料を紹介する場合は、『寒川町史』の掲載ページを示すなど、資料の閲覧につながるような記述を心がけている。 （委　員） 投稿内容はどのように決めているのか。 （事務局）

	運用ポリシーはあるが、投稿する内容の方向性については特に定めはなく、試行錯誤を繰り返している。 （委　員） 現在の投稿の頻度は。 （事務局） 月に数回から 10 回程度である。 （委　員） どのようなものを出したか、タイトルだけでも人の目に触れるようにしてはどうか。例えば、ホームページに「今年のＳＮＳ」のような表を設けてタイトルの一覧を載せ、それをクリックするとＸのページにリンクするという仕掛けがあっても良いのではないか。出しっぱなしにせず、アフターフォローをしてもらいたい。町史研究にタイトルを載せるという方法もある。 （事務局） 検討する。 （委　員） 図書館との連携事業として、体験ツアー、図書館まつり、回想サロンが挙がっている。これらは図書館事業に文書館が加わらせてもらっている形だが、文書館としての意思が感じられない。単に一般受けする企画をおこなって人集めすることが目的であるように見受けられるが、図書館の人たちを巻き込んで、学術的なものにどう高めていくかという視点が欠けているように見えて残念だ。「図書館との連携」という言葉は美しいが、対等な連携ではないのが現状だ。これは開館当初から懸念されてきたことだが、この点は常に検討していかなければならない課題である。 （委　員） 図書館事業に対し文書館にも参加してくださいと呼びかけがあるだけなのか、逆に文書館から図書館にも参加してくださいというケースがあるのか。 （事務局） 現在は前者だけである。文書館としては、図書館事業に参加することに意義があると考えている。例えば、文書館の普段の利用者は一日 20 人程度だが、図書館まつりの時は 200 人を超える人が来る。これまで来館したことのない人がほとんど

	で、４階の文書館に来ても良いとは知らなかったとの声もあるくらいだ。文書館としては、連携事業を文書館の役割を伝え認知してもらえる好機と捉えている。 （委　員） 例えば「文書館まつり」を開き、図書館にも加わってもらうという発想はないのか。 （事務局） 設立日は一緒なので、あえて別におこなう必要はないと考える。 （委　員） 古文書講座から図書館の蔵書につなげるという方法はないのか。くずし字や草書に関する本を紹介するとか。 （委　員） 図書館の蔵書を見ると、専門的なものが少なくて、それほど役立ちそうではないという印象を持っている。 （事務局） 図書館の資料を見て、もっと詳しく知りたい人が４階の文書館へ行くというのが道筋ではないかと思う。 （委　員） それが建物として自然な流れかもしれないが、お互いに利用を増やすために協力し合うのは少しも悪いことではない。 **（３）令和８(2026)年度寒川文書館事業計画(案)について** 事務局より令和８年(2026)年 6 月末現在の事業実施状況について説明したところ、次のような質疑があった。 （委　員） 燻蒸で施工業者の事業所に運ぶとのことだが、その方法は。 （事務局） 施工業者が依頼した運送業者が当館に来て、文書館職員立会のもと車に搬入する。現地に着いたら、はやり文書館職員立会のもと、車から降ろして燻蒸庫へ搬入することになっている。 （委　員）

	資料を寄贈した文化連盟というのはどのような団体か。今もあるのか。 （事務局） 書道、写真、俳句などの文化サークルの連合体で、各サークルの代表が理事などになって文化祭などのイベントを運営しており、現在も存続している。 （委　員） このような資料の寄贈は今回が初めてか。 （事務局） 以前にも活動記録の寄贈を受け入れている。今回はその追加分となる。 （委　員） 「視察などの受け入れ」の項で、小学校の施設見学は１階で説明するだけで４階に上がってこなかったと聞いた。本来、図書館と文書館の両方を見ることに意味があるが、それを崩されてしまうのは納得できない。 （事務局） 図書館の使い方を学び、利用登録をすることが本来の目的である。そこに文書館の見学も併せておこなっていた。 （委　員） せっかく図書館に来るのだから、従来どおり文書館に来てもよいと思うのだが、あえて文書館を外す意図がわからない。 （委　員） 図書館の見学は２年生がおこなっている。学校のニーズとしては、図書館を見学しカードを作り、本を借りる練習をすることが主目的である。体験を通して、図書館を理解して帰って行く。そこに文書館の見学が加わるのも大事なことではある。２年生が学校から歩いて行って、また学校へ戻ること自体が大変なことである。担任の先生からすると、４フロア全部を回る工程を作るのは大変なことである。しかしせっかく来るのであれば文書館を少しでものぞいてほしいという意見も理解はできる。 （委　員） 私も４階まで来ることに意義があると思う。たとえ２年生であっても、ここへ来たという印象はおそらく残ると思う。子どもたちが一生文書館を忘れないかもしれないと考えると、それぐらいの時間は良いのではと思ってしまう。

	（委　員） １階で説明する際、文書館について説明する時間はとっているのか。 （事務局） 説明の時間を設けている。各学校にまつわる資料を見せながら説明している。 （委　員） それだけではインパクトが弱いと思う。可能なら、パンフレットを配り、あなたが通っている小学校が作られたときの記録があるよ、などと書いたものを持って帰ってもらえば、後で見返して覚えてもらえるかもしれない。 （委　員） その場で全員に届かなくても、１人でも２人でも覚えていてくれれば、それが成果ともいえる。 （委　員） 限られた時間の中で４階まで行くのが大変だというのはわからなくないが、本当は見に来てほしい。しかし、昔の学校の写真が載ったパンフレットを記念品として持ち帰ってもらうというのは、良いアイデアだ。今まで受動的にやっていたものを、積極的に転じてほしい。子どもたちはどんどん吸収できる頭をもっているはずだ。 （委　員） 個人的な話だが、自分の娘が一昨年に見学でお世話になった。幼稚園のころから図書館によく連れてきて、１階の絵本を利用していた。２年生で見学した時に聞いてみると、４階はすごいところという印象をもったようだ。同じ建物でも、ふだん利用している図書館とは違う側面をみることができたので、意味がないなどということは決してない。 （事務局） 今年度は試行である。文書館としても４階に来てもらいたいと考えており、申し入れもおこなうつもりである。これまでの視察時にも、学校に関係する資料を見せている。それを配って持ち帰ってもらうとことについては、検討したい。 （委　員） 子どもの本離れが激しく、図書館を利用する子の割合は皆さんの想像よりもはるかに低くなっている。とにかく本を読まない。そのために学校としては、図書館に行って、とにかく本に出会ってほしいということが主になってしまう。４階に

	もこんな施設があると教えるのは大事なことだ。かつて、２年生で文書館を見学したのを覚えていて、６年生になって学校のことを調べるために文書館へ行ったという子がいた。２年生の体験が後の利用につながるので、現場を見てもらうのは大事なことだ。そうは言っても、時間の制約に苦慮している学校側に、全校必ず立ち寄りなさいとは言えない状況だ。校長会でも話題にはしたいと思う。 （委　員） 滞在時間はどのようにして決まるのか。 （委　員） 学級数や１クラスの人数が学校によって異なるが、給食の時間までに学校に戻らなければならないので、その制約のなかで学校と図書館が協議して決めていると思う。 （委　員） 図書館を見学することについて、学習指導要領で決まっているのか。 （委　員） 特に定めはない。地域のことを学ぶのは３年生・４年生であり、２年生の段階では自分の学区を中心に施設を学ぶため、図書館と郵便局に行くことになっている。最近ではこれに給食センターが加わった。文書館も大事だということを話題にしていきたい。 （委　員） 「刊行物の作成」のところで町史編集委員会で座談会を実施したとある。この書き起こしは誰がおこなっているのか。 （事務局） 事務局で進めている。 （委　員） 第２回会議はその流れに位置づけるのか。 （事務局） 第２回会議は町史研究の紙面構成について検討する回になる。 （委　員） 会議やインタビューの文字起こしは、かつては業者委託でおこなっていたが、現在は自前で実施しているのか。座談会の書き起こしに時間がかかりすぎている気

	がする。 （事務局） 町が契約している「文字起こしソフト」を使っているが、その精度は高くない。その修正作業を進めているが、他業務との兼ね合いもあり時間をとってしまった。まもなく編集委員に確認をお願いすることになる。 （委　員） 座談会当日に欠席した方には、文字起こしした原稿に加筆していただくことになっている。こうした作業を経て、来年３月の刊行予定ということで、よろしくお願いしたい。 （委　員） 職員研修の項で、全国公文書館長会議にオンライン参加したとあった。最近は全国の館長が一堂に会することがなくなったということか。 （事務局） この会議は現地とオンラインの併用である。別件だが、内閣府主催の「公文書管理フォーラム」という催しにも館長と平尾がオンライン参加した。こちらは地方公共団体の職員だけでなく地方議員などの参加者の幅を拡げている。このような流れがあることを共有したい。 （委　員） 図書館・文書館体験ツアーは、学校ではなく図書館が参加者を募るのか。 （事務局） 夏休みの企画として、図書館が募集している。 （委　員） 何年生の子が来るのか。 （事務局） 今年度はまさに本日、この時間に開催している。昨日確認したところによると、３年生から５年生の児童６人が参加予定とのことであった。文書館の収蔵庫を案内し、資料を見てもらう。 （委　員） この建物ができた経緯などもパネルで説明できたら良いのでは。

	（事務局） ツアーでは実施する予定はないが、今年度の企画展で紹介する予定である。 （委　員） 建物の建築に関して、公文書の表紙や図面をみせる工夫をしてほしい。文書館が町の重要な記録を持っていることをアピールする良い機会なので、写真や本の写しだけでなく、公文書館らしいところを見せてほしい。 （事務局） 検討する。 （委　員） 古文書愛読会について。毎月第３水曜に活動しているとのことだが、これでは仕事を持っている若い人は参加しにくい。開催日を変更することはできないか。 （事務局） 愛読会の会員が話し合って、最適な曜日を決めるものなので、こちらの一存で動かすことはできない。 （委　員） 会の存続のためにもそのようなニーズがあると伝え、検討してもらっても良いのではないか。 （委　員） 古文書講座に参加する人は。リピーターが多いのか。 （事務局） リピーターが多い。 （委　員） 年齢層はどうか。 （事務局） 高齢の方が多いが、昨年は 20 代の参加者がいた。 （委　員） ただ「古文書講座」とするだけでなく、告知する段階でどのような資料を読むのかが事前にわかっていると、応募しやすくなるのではないか。古文書講座が何をする催しなのかを知らない人までもターゲットにした情報発信が大事だ。

	（事務局） これまでは副題を「江戸時代の史料を読む」としていたが、今年度は「くずし字から世相を読む」に変えた。明治以降も大切な資料があり、くずし字の文化も続くというメッセージを込めている。 （委　員） 歴史学を学ぶ人にとっては、広がりがみられて楽しそうだが、そうでない人にはこれだけでは伝わりにくい。もうひと工夫があると良いのだが。 （委　員） 観光ボランティアガイドクラブでは、ガイドの体験ツアーを実施した。史跡を説明する体験を半日だけ試してもらうという企画で、何人もの参加者があった。古文書講座も５回全てに出席しなければならないというのではなく、１回だけの参加を可能とするなどしてもよいのではないかと思った。 （委　員） １回集まって、宿題を持って帰ってもらい、あとはメールで添削するという方法なら、参加者は時間に縛られずに学ぶことができる。これまでのやり方で来てくれる人を待つだけでなく、どうしたらハードルが下がるかをいろいろ考えていただきたい。 （委　員） 古文書という言葉自体、敷居が高いのかもしれない。何か言い換えられればよいのだが。 （委　員） 「あなたも読める昔の手紙」とか、良さそうなキャッチコピーを前面に出すなどして、人が来るようにしてほしい。 （委　員） 講師は文書館職員が務める決まりがあるのか。 （事務局） 決まりはなく、外部講師に依頼したこともある。 （委　員） ではこの審議会のメンバーに務めていただくことも可能なのでは。さまざまな意見があったが、これを参考に柔軟に対応していただきたい。

	３　その他 議事次第以外の事柄として、次の発言があった。 （委　員） 学校との関係について。施設見学、職場体験、出前授業などは、ぜひ続けていただきたい。特に出前授業は、他校にも広がるように呼びかけをおこないたい。 （委　員） 前から提案しているのだが、審議会としてバックヤードを見学したい。公文書の書架延長が何メートルと資料で示されてもイメージできない。館の理解を深めるためにも、会議の前か後に見学する時間を設けることを検討していただきたい。 （委　員） 次回の会議の会場を図書館会議室に設定して、会議開始前に見学するということではどうか。 （事務局） 会議前に見学時間を設けるという方向で準備をする。日程については後日調整するので、その節はご協力をお願いしたい。
資　　料	資料①　令和７(2025)年度寒川文書館事業結果報告 資料②　令和８(2026)年度寒川文書館事業中間報告
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	内　海　　孝 令和８年９月 11 日確定